

コロナワクチン接種は個人意思 米 CDC、推奨方針を転換

9/20 時事通信社

【ニューヨーク時事】米疾病対策センター（CDC）の諮問委員会は19日、生後6カ月以上の人への新型コロナウイルスのワクチン接種について、個人の意思に基づくものだと勧告した。

決定は全会一致。ケネディ厚生長官がワクチンに懐疑的な主張を展開する中、広く推奨していたこれまでの方針を大きく転換する。

勧告によると、65歳以上の高齢者は、個人の意思または医師の診断に基づいて判断する。一方、65歳未満でも基礎疾患を抱えている場合、ワクチン接種から生じるリスクよりも便益の方がおおむね上回るとの見解を示した。

米厚生長官、逆風強まる 反ワクチンに共和党も懸念

9/6 時事通信社



【ワシントン時事】ワクチン懐疑論者のケネディ米厚生長官に対する逆風が強まっている。感染症対策を指揮する疾病対策センター（CDC）のモナレズ前所長の解任が引き金となった。4日に開かれた上院財政委員会の公聴会では、野党民主党だけでなく、与党共和党からも懸念の声が上がった。ケネディ氏は公聴会で、モナレズ氏解任を巡って「絶対的に必要だった」「信頼できない人物だ」などと主張し自己弁

護した。ワクチン政策を巡って科学者のモナレズ氏と対立していた。

モナレズ氏は4日のウォール・ストリート・ジャーナル紙（電子版）への寄稿で「私は政治思想よりも科学的証拠を優先する信念を貫いたため、解任された」と明らかにした。さらに、ケネディ氏の反ワクチン政策によって「米国の子供たちはもっと大きな代償を払うかもしれない」と警鐘を鳴らした。

足元の厚生省も揺らいでいる。ケネディ氏の辞任を求める公開書簡に、1000人以上の省職員（元職含む）が署名した。医師や看護師の団体からも辞任要求が相次いでいる。

公聴会では、野党民主党や無所属の議員らがケネディ氏に集中砲火を浴びせた。同時に、共和党からも「懸念は深まっている。安全性が証明されたワクチンが脅かされ、数十年の進歩が逆行しかねない」（バラッソ上院議員）などと批判が出た。

トランプ大統領は4日、「公聴会は見えていないが、彼は優れた人物だ」とケネディ氏を擁護した。ただ、トランプ氏は政権1期目、新型コロナウイルスワクチンの開発を推進する「ワープスピード作戦」を主導した。共和党のキャシディ上院議員は公聴会で、トランプ氏のワクチン開発への貢献を「ノーベル賞に値する」と称賛したが、ケネディ氏がそれに賛同すると、「驚きだ。明らかに矛盾している」とあきれた表情で語った。

mRNAワクチンへの投資中止 「予防効果なし」と主張—米厚生長官

8/6 時事通信社

【ワシントン時事】米厚生省は5日、メッセンジャーRNA（mRNA）ワクチンの開発計画への投資を中止すると発表した。ワクチン懐疑論者のケネディ長官は保健政策の方向

転換を進めており、今回の発表もその一環となる。

ケネディ氏は声明で「これらのワクチンは新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症に対して予防効果はないことが明らかになった」と一方的に主張した。約5億ドル（約740億円）に上る計22件の開発計画に対する連邦政府の資金提供を打ち切る考えを示した。

mRNAは新型コロナウイルスワクチンに活用され、コロナ禍収束につながった。この基礎技術を開発したカタリン・カリコ氏とドリュー・ワイスマン氏は、2023年のノーベル生理学・医学賞を受賞した。